

平成 24 年度成長機械市場対策事業  
成長市場対策委員会 報告書

## メキシコにおける機械産業の生産・販売環境

～北に米国、南にブラジルを擁する中南米第 2 位の経済大国  
拡大を続ける FTA 網や豊富な労働力を活かし更なる発展へ～

2013 年 3 月  
日本機械輸出組合

## はじめに

メキシコは米国と中南米をつなぐ戦略的な位置に立地し、天然資源に富み、自動車産業を始めとする多岐に渡る産業が発達しています。安定した政権は良好な国際ビジネス環境を提供し、これまで北米市場への製造拠点として海外から多くの投資を受け入れてきました。また、近年は世界 44 カ国と FTA、EPA を締結し、多角的な経済連携の下で貿易立国を目指しています。日本との間でも 2005 年に日墨経済連携協定（EPA）が発効し、貿易・投資面での関係が一段と深化しています。

同国は以上のような製造拠点としての魅力に加えて、近年は消費市場としての魅力を高めています。2011 年の国内総生産は 1.2 兆ドル（世界第 14 位）、人口は 1.1 億人（世界第 11 位）の市場規模で、中南米ではともにブラジルに次ぐ第 2 位の地位にあります。近年の順調な経済成長により 1 人当たり GDP は既に 1 万ドルを超えており、国内消費は今後も安定して伸びると予測されています。

このような市場のポテンシャル、あるいは日墨 EPA や IMMEX 制度（新マキラドーラ制度）などの通商環境の優位性に比して、日本ではこれらの情報が一般的に伝わっていないことから、日本機械輸出組合の「成長市場対策委員会」では、『メキシコにおける機械産業の生産・販売環境』の調査を(株)日本総合研究所へ委託し、同市場における投資環境について総合的に調査するとともに、委員会で調査団を派遣し同市場で先行する企業のビジネス戦略、成功要因を分析することによりメキシコの特徴を体系的に捉える事を試み、日本企業がどの様にメキシコ市場を開拓し競争していく可能性があるかを探りました。本報告書が我が国機械産業の関係者にとりまして今後の事業戦略立案の一助になれば幸いです。

最後に、調査事業の実施に際し、ご協力をいただきました委員各位並びに関係企業、機関の方々へ心よりお礼申し上げます。

平成 25 年 3 月

日本機械輸出組合  
成長市場対策委員会  
委員長 松原 武夫

# メキシコにおける機械産業の生産・販売環境調査

## 要 旨

### 第 1 章 マクロ経済の動向

メキシコは、石油等豊富な資源を背景にした鉱業の発達だけではなく、陸続きである米国と FTA (NAFTA) を締結することで製造業等を中心に発展している。中南米において 2 番目の経済規模、北米を含めても 4 番目の経済規模を誇っている。一人当たり GDP は 1 万ドルを超え、消費市場は拡大。消費地としての魅力も増している。

2012 年 12 月には大統領が変わったものの、大きな政策の変更はなく、経済対策・治安対策等への成果が期待されている。

### 第 2 章 投資環境関連制度

外国企業による投資は、基本的に歓迎されている。

44 ヶ国と締結している FTA や IMMEX (加工貿易を促進する制度)、PROSEC (産業分野別の生産を促進する制度) といった優遇政策を活用することで、効率的な生産オペレーション及び輸出入が可能となっている。日本・メキシコ間ではすでに日墨 EPA を締結済みであり、多くの品目について特惠税率での取引が可能となっている。

一方、インフラ網は整備途上である。特に物流インフラについては、通関手続きの複雑さ、セキュリティ対策の必要性、港湾の混雑といった問題を抱えており、ビジネス展開における障害となっている。

### 第 3 章 各産業の市場動向及び生産概況

#### 3.1.自動車産業

自動車産業はメキシコの製造業 GDP の 18% を占める重要産業である。日系企業の進出も進み、日本車のプレゼンスも大きい。国内市場の規模はそれほど大きくなく国内生産の 8 割以上が輸出されている状況にあり、好調な輸出に牽引されて成長が続く見込み。最近では南米への輸出が増加しつつあるが、今後数年は輸出規制があることに注意が必要。

#### 3.2.電気・電子産業

自動車産業に次ぐ重要産業である。自動車産業同様、生産されたものの多くは輸出され

る。国内には欧米系、韓国系、台湾系など多数の企業が生産拠点を構え、国内外の市場に製品を供給している。エレクトロニクス製品市場では日本企業がある程度健闘しているが、家電市場は欧米系メーカーが強く、また韓国系のプレゼンスが高まっている状況にある。

### 3.3.航空産業

航空産業は政府が国を挙げてその育成に取り組んでいる今後注目の産業。大手航空機メーカーの生産拠点設置に伴い、関連する部材メーカーなどの進出が急速に進んでいる。日系企業はまだ進出していないが、政府や業界団体は外資の技術を活かした産業育成に対して非常に積極的であり、日本企業にとっても魅力的な投資先となる可能性がある。

### 3.4.産業機械関連産業

農業機械については、近代的農業があまり発達していないメキシコでは導入が進んでおらず、北部や西部の輸出用商品作物栽培地域に市場が集中している。市場規模は拡大しているが、現在のところ欧米系の企業が市場を握っている状態である。

工作機械はメキシコではほとんど生産されておらず、米国や日本からの輸入で需要の大部分がカバーされている。ここ数年自動車産業や航空産業の発展に伴って急速に輸入量（≒市場規模）が増加している。

## 第4章 成功している内外企業の事例研究と戦略の方向性

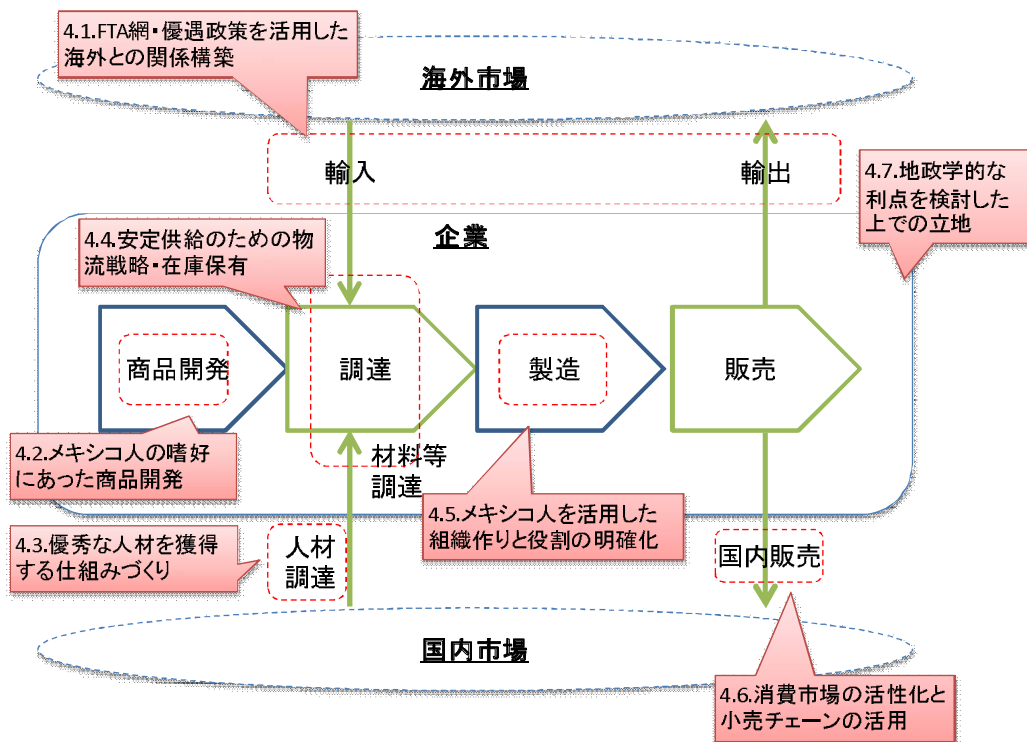
メキシコで成功している企業は、それぞれメキシコの外部環境と内部環境に事業を柔軟に適応させている。メキシコの代表的な外部環境といえば、まずFTA網の存在や北米へのアクセスに恵まれた立地が挙げられるだろう。内部環境としては、例えば保守的嗜好を持った消費者の存在や成長期にある市場といった特徴がある。

ある日系企業はFTA締結国から輸入される部材や完成品にかかる税率が年々低下していくことをふまえて、完成品としての税率が低い品目はメキシコ国内で生産をやめて、より生産コストの低い国から完成品を輸入して販売するなど、メキシコ市場で生産する品目を最適なものに戦略的に変更している。メキシコ特有の関税優遇措置であるIMMEX制度（第2章参照）の恩典を利用して海外から無税で部材を輸入し、メキシコで生産した製品を諸外国に輸出している企業もある。

また、メキシコ人消費者の「派手な色を好む」、「日本にはないようなスペックの家電にニーズを持っている」等の特徴をよく把握し、市場に合った商品開発を進めたことによって成功している企業もあれば、「課題解決型の働き方を好む」、「専門性を活かした職を望む」という労働力としてのメキシコ人の特徴を捉えてその能力をうまく活用し、経営に成功し

ている企業もある。

この他第4章では、下記のスキームにある「4.1 FTA網・優遇政策を活用した海外との関係構築」から「4.7 地政学的な利点を検討した上での立地」までそれぞれの項目を活かした内外企業の成功事例について紹介する。



## 第5章 日系機械関連企業のメキシコ市場における対応策

メキシコは、北米と南米に近い戦略的に恵まれた立地、積極的な外資優遇策など、投資先としての優位性を多数有する国である。同時に未成熟な裾野産業や不安定な治安など、解決には時間を要する懸念点が存在することには注意が必要である。

メキシコの製造業は今後も発展を続け、生産拠点としての魅力は中長期的に持続すると考えられる。また近年は人口増加や経済成長を受けて、市場としての魅力も高まっている。よってメキシコは戦略次第で「生産拠点として魅力的な国」から「生産拠点としても、市場としても魅力的な国」になるポテンシャルを備えているといえる。

メキシコ経済、特に製造業は調達、販売の両面で周辺諸国と深いつながりを持っているという特徴がある。この特徴はメキシコで活動する企業にとって有利に働くことも多いが、他国の政治・経済の影響を受けやすいというリスクもはらんでいる。メキシコでの事業展開においては、常にこのメキシコ経済の特徴を最大限に活かしつつ、リスクへの対策を怠らないことが肝要である。

## 目 次

第1章	マクロ経済の動向.....	1
1.1.	メキシコ概要.....	1
1.1.1.	概要.....	1
1.1.2.	日本との関係.....	3
1.1.3.	新政権の政策.....	5
1.1.4.	治安動向.....	8
1.2.	経済動向.....	11
1.2.1.	世界の中のメキシコ.....	11
1.2.2.	北中南米におけるメキシコ.....	12
1.2.3.	経済の成長.....	13
1.2.4.	第三次産業の発達.....	14
1.2.5.	豊富な労働力.....	15
1.2.6.	米国経済依存からの脱却.....	16
第2章	投資環境関連制度.....	19
2.1.	進出手続き.....	19
2.1.1.	外資規制・出資規制.....	19
2.1.2.	投資優遇措置.....	21
2.1.3.	進出形態.....	24
2.1.4.	会社設立手続き.....	25
2.2.	税制事情.....	25
2.2.1.	法人所得税.....	25
2.2.2.	消費課税.....	26
2.2.3.	国際課税.....	27
2.2.4.	輸出入関連税.....	28
2.2.5.	資産課税・その他の課税.....	28
2.3.	インフラ.....	29
2.3.1.	物流インフラ.....	29
2.3.2.	電力・通信.....	39
2.3.3.	工業団地.....	40
2.4.	金融事情.....	42
2.4.1.	金融機関概要.....	42
2.4.2.	政府系金融機関.....	43
2.5.	自由貿易協定等の提携状況.....	43
2.5.1.	FTA・EPA の状況.....	43

2.5.2.	ALADI（ラテンアメリカ統合連合）の状況.....	45
2.6.	労務事情.....	46
2.6.1.	労働環境・労働法について.....	46
2.6.2.	賃金水準.....	47
第3章	各産業の市場動向及び生産概況.....	49
3.1.	自動車産業.....	49
3.1.1.	投資動向.....	49
3.1.2.	生産動向.....	51
3.1.3.	販売動向.....	53
3.1.4.	輸出動向.....	55
3.1.5.	自動車部品産業.....	59
3.2.	電気・電子産業.....	62
3.2.1.	エレクトロニクス産業.....	62
3.2.2.	家電産業.....	70
<b>3.3.</b>	<b>航空産業.....</b>	<b>75</b>
3.3.1.	投資動向.....	75
3.3.2.	生産動向.....	76
3.3.3.	輸出動向.....	78
3.4.	産業機械関連産業.....	81
3.4.1.	農業機械.....	81
3.4.2.	工作機械.....	84
第4章	成功している内外企業の事例研究と戦略の方向性.....	88
4.1.	<輸出入>FTA 網・優遇政策を活用した海外との関係構築.....	89
4.1.1.	戦略の方向性.....	89
4.1.2.	事例研究.....	89
4.2.	<商品開発>メキシコ人の嗜好にあった商品開発.....	90
4.2.1.	戦略の方向性.....	90
4.2.2.	事例研究.....	90
4.3.	<調達：人材>優秀な人材を獲得する仕組みづくり.....	93
4.3.1.	戦略の方向性.....	93
4.3.2.	事例研究.....	93
4.4.	<調達：原材料>安定供給のための物流戦略・在庫保有.....	95
4.4.1.	戦略の方向性.....	95
4.4.2.	事例研究.....	95
4.5.	<製造>メキシコ人を活用した組織作りと役割の明確化.....	98
4.5.1.	戦略の方向性.....	98

4.5.2.	事例研究.....	98
4.6.	＜販売＞消費市場の活性化と小売チェーンの活用 .....	101
4.6.1.	戦略の方向性 .....	101
4.6.2.	事例研究.....	102
4.7.	＜その他＞地政学的な利点を検討した上での立地・生産 .....	104
4.7.1.	戦略の方向性 .....	104
4.7.2.	事例研究.....	104
第5章	日系機械関連企業のメキシコ市場における対応策.....	106
5.1.	メキシコの優位性と留意点.....	106
5.1.1.	優位性.....	106
5.1.2.	留意点.....	107
5.2.	今後の事業展開に向けて .....	108
＜参考情報＞	.....	111
	投資等に当たっての連絡先.....	111